



第427回 6/6(火)「La graine ラグレーヌ」

「ラグレーヌ」はフランス語で「種」。ただ今 環境問題・高齢者福祉・まちづくり・買い物支援・食育・食品ロスなどいろいろな分野を目的に活動しています。フットワークの良い「lagraine ラグレーヌ」理事長の高野橋 絵美さんをお迎えしました。団体のメンバーは現在17名。ほとんどが、野菜が美味しいとリピーターになられて賛同してもらえた方々です。生産者と消費者を結ぶ またそこに市民活動でのチームワーク・広がり・絆をもつての「ラグレーヌ」の活動ぶりは素晴らしいものです。「契約農家制度」を取り入れ「野菜の無人販売～移動販売」などInstagram等を利用して積極的に活動しています。「美味しかった」と言ってもらえることが、やりがい！」と明るく元気な高野橋さんです。



今回の出演 429回 7/4「中北薬品&市民活動センター」 430回 7/18「日本ケアトランポリン普及協会」
FMやまと 77.7MHz 第1.3.5(火) 生放送 9:00～9:30 同日再放送 15:00～15:30

第428回 6/20(火)

「やまとボランティアセンター」・「大和市民活動センター」

やまとボランティアセンターの石井順さんと大和市民活動センターの代表 望月とスタッフ 佐々木の出演です。この夏に4年ぶりに行われる中高生ボランティア体験「このゆびとまれっ！」の紹介をしました。

体験メニューはそれぞれのセンターが準備し、受付も行います。やまとボランティアセンターは「車いす清掃ボランティア」「障がい者施設ボランティア」「防災施設見学」と「保育入門講座」の4つ、大和市民活動センターでは「子育て支援サポーター」「国際交流支援サポーター」「障がい者支援サポーター」「芸術・文化支援サポーター」の5つのメニューを準備しています。この夏休みを活用して…中高生みなさんのご参加お待ちしております！



TSUBASA's トーク 第21回「共育セミナーの裏話 準備の苦労と反省点」

①スピーカーの依頼を受けたけれど

イベントの準備には手間がかかるものですね。テーマ・内容・時間配分の設定、事前の広報、資料の準備…。私がスピーカーを担当した6月の共育セミナーでも、センターのスタッフに協力してもらいつつ、準備に奔走しました。

立案のきっかけは、今年3月に「緑のふるさと協力隊」を終えて、センターを訪れた時のこと。スタッフに農作業や郷土芸能の体験を写真で紹介していたところ、「この沢山の写真を使って、一つのストーリーとしてみんなで見る場を設けたいね」と持ちかけられました。



初めはすぐにOKしました。「センターの広報に協力隊の体験を載せてもらったし、当日のライド資料も他で使ったものを少し変えればいいか」と。実はその後、色々な準備に苦労しました。

②「楽しくタメになる」雰囲気を作るのか？

スピーカー担当と決まると、「尾畑君の好きなように、形式は自由にやっていたら」と、スタッフに言われました。「丸投げじゃん！」と驚きましたが、後になって「形式から自分で決めて、地方での体験を紹介することはセンターくらいでしか出来ない」と気づきました。スタッフが私に教育の場を与えてくれたのだと感じています。



担当する共育セミナーの方向性を「楽しくタメになる」と決めて、リピーターを増やす機会にしたいと思いました。悩んだのは、農家との思い出を語った楽しい雰囲気のまま、地方の現状を伝える方法です。小学校が次々閉校して、農地の「押し

付け合い」が起きている様子は、共育セミナーの「ちょっと先の世界を照らす」というテーマと噛み合わないように感じました。

そこで、伝える内容の順番を「地方の現状」→「人生観の変化」と変え、現状を伝える量も絞り、前向きに話が進むように心がけました。後半の意見交換「農山村に住むなら」でも、現状を話し合ったので、全体のバランスは保たれたように感じています。

③反省点は質問タイム、参加者同士の交流とリピーターの観点

むしろ「しまった」と思ったのは、体験紹介の後の質問タイムでの出来事です。「最後に『大変な時期もあって』と話していましたが、何が大変だったのですか？」と訊かれたときに、「イベントの企画と運営が～」と曖昧に答えてしまいました。

きっと参加者の方は、私自身が翻弄される姿から地方の生活を想像したかったと思うので、次のように答えたり、ライド資料でも伝えておけば良かったと思いました。



「イベント内の農業体験を依頼するために、大雪の降る夜に慣れない運転で、明かりの少ないガタガタ農道を運転して農家さんを訪ねた(生活環境の違い)」「温かいコタツとコーヒーは嬉しいけれど、息子との不仲についての長いおしゃべりを断りづらく、帰りも遅くなるが続いた(ボランティアの立場の弱さ)」

また、参加者同士の交流や、リピーターについての観点が、内容を定める段階で足りなかったのも反省点です。例えば、セミナー後にもFacebookの「共育セミナー参加者」コミュニティで過去の参加者と意見交換ができた、セミナー当日に次回のスピーカーが参加して、帰りに宣伝と募集があったりするのも、「楽しくタメになる」雰囲気作りに役立ったかもしれません。

(サポーター 尾畑 翼)



大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第192号 発行日：2023年7月10日

大和市民活動センター <開館日 月～土 9:00～18:00>
<休館日 12月29日～1月3日・毎月第3月曜日>
〒242-0018 大和市深見西1-2-17

発行：大和市民活動センター 拠点やまと

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788
e-mail:yamato@ar.wakwak.com
http://www.kyodounokyoten.com/

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！

あの手 この手

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

第192号 2023年7月10日 大和市民活動センター【拠点やまと】発行

7月号
2023

ペテルギウス玄関
7月3日の生け花



表紙絵は「やまと国際フレンドクラブ」(IFC)主催
2022「第15回やまと国際アートフェスタ」
入賞作品を毎月掲載しています。

タイトル：「しあわせのみらい」

メッセージ：「争って、悲しんでいる人たちに鳩が幸せを運んでくれる絵です。みんなに幸せになってほしいからこの絵を描きました。」

今回のテーマ ～平和・いま私にできること～
画廊喫茶オルセー賞 バトウルノミンさん
上和田小学校4年生(当時3年生) モンゴル

「やまと国際アートフェスタ」は「やまと国際フレンドクラブ」(IFC) *の主催で毎年催されています。
*草の根の国際交流、外国人支援を行いながら「ともにくらすまち 大和」を考えるボランティアグループです。

大和市協働事業提案プレゼンテーション開催

令和5年度「大和市協働事業提案公開プレゼンテーション」が7月1日(土)大和市役所会議室にて行われました。現在多くの協働事業が実施されていますが、今回の提案は2件「大和市民活動センター管理運営事業」拠点やまと/市民活動課「自治会業務の負担軽減を実現する協働事業」NPO やまとスポーツマネジメント/生活あんしん課



尚、これを受けての協働事業提案答申は8月31日(木)を予定しています。

夏休み中高生ボランティア体験「このゆびとまれっ！」オリエンテーション開催



「選ぶ」「学ぶ」「体験する！」
夏にしかできない体験がココにはある！
7月21日(金)・29日(土)
14:00～16:00(どちらかに参加)

対象：市内在住、在学の中学生・高校生
場所：市民活動拠点ペテルギウス 2階会議室
申し込み：大和市民活動センター
締切：7月14日(金)



第102回 共育セミナー（開催レポート）
ウイズコロナ、ポストコロナ時代の社会貢献活動

その6 農山村暮らしで体感したことを伝えたい
「緑のふるさと協力隊」（岩手県一関市花泉町）に参加して



第102回共育セミナーを6月24日（土）に社会貢献活動に関わる多くの人々にエールを送り、一歩踏み出す勇気を持つ人を後押ししたいという趣旨で開催いたしました。

今回は、当センターのサポーターで、NPO 法人地球緑化センターの「緑のふるさと協力隊」に参加し、1年間岩手県一関市花泉町に滞在された尾畑翼（つばさ）さんをゲストスピーカーとしてお招きして、11名の参加を得て開催しました。

尾畑さんは、2019年から当センターのサポーターとして、センター登録団体へのインタビューをして記事にしたり、Instagramページ作成、ホームページ上で紹介する団体のPR動画の撮影編集などを行い活躍されました。数少ない若手のボランティアとして、センタースタッフの苦手な部分を担ってくれたのです。（この日の尾畑さんの話を伺うと、サポーターになるきっかけは、STT（サウンドテーブルテニスクラブ：目の不自由な方がする卓球）の試合のサポートをして、生活課題を聞くというボランティアに参加して、「身近な場所で活動をする人を伝えたい」という想いが強くなったということでした）

昨年4月、私たちセンタースタッフは、「尾畑さん、就職どうするんだろうね、ねえ誰か聞いてない？」という話をしていたところ、「NPOの派遣で、1年間一関に行きます」という情報が飛び込んできたのです。

「親御さんはどう思っているのかな」と一瞬心配をしたのですが、「そう、それは尾畑さんに合っている」と思い、継続して、あの手この手最終面の「TSUBASA'sトーク」への寄稿をお願いして、尚且つ、内容は、是非岩手県一関市の様子を感じたままレポートして欲しいという宿題を課して、送り出し？ました。

そうしたところ、毎月、いきいきとした体験をとおした文章が写真付きで彼から送られてきました。飾らない文章が、一関の空気を想起させ、尾畑さん自身もたくましくなって行く様子が、写真の表情や体格から見て取れました。行ってよかったねと。

今回のセミナーは、そんな彼の1年間の農山村での暮らしを市民の皆さんに伝える場を設けたいという想いで開催いたしました。

その様子のエッセンスを当日、尾畑さんから提供をしていただいた写真や資料をもとにご紹介します。

編集・文責：船越 英一 イラスト：望月 則男



面接で一関を希望

見渡せる景色、開放的になれる



2022年4月 全国の12市町村に派遣される同期と

1年間、練習してきた「鶏舞」を活動報告会で披露

「緑のふるさと協力隊」は NPO 法人地球緑化センターが主催し、農山村の暮らしに興味のある若者が、地方の組織を拠点に1年間、農業や地域行事の手伝い、地域交流おこなうものです。（NPO がサポート・仲介役をしています）

隊員が派遣された地域は、隊員の行動力・感性を活かして地域づくりを勧めます。派遣された隊員の中には、その地域に定住する人もいます。

若者は、「学びの場」、「お金や物質ではない豊かさを知りたい」、「田舎暮らしで人との繋がりを感じてみたい」という動機があるようです。

作業を長続きさせる方法を知っている



上の2枚の写真は、セミナーで尾畑さんが「農作業の合間」の食事、おやつ時間の写真として紹介されたものです。雑談をしながら作業することも多かったということですが、辛い過酷な農作業をみんなで協力して続けるために、必要なことなんですね。尾畑さんは、温かい人に囲まれて「そこにいてくれるだけで嬉しい」と言われる関係が持てたことに感謝をしていました。

米の値段は下がっても、すぐに辞めるわけにはいかない。周囲から米作りを任されているのだからと、40枚以上田んぼを管理しているけれど、負担は次第に大きくなる一方で、自動化なんて全然。そんな現実があるようです。

小さな感動を伝える



トラクターに溶け込む尾畑さん

神社での鶏舞奉納

活動拠点は、農事組合法人なつかわファーム 一関市役所花泉支所産業建設課



主に関東出身の学生を受け入れる体験プログラムも企画。学生が模造紙に体験をまとめた



セミナーの後半では、「わたしは、農山村で暮らしたい!」、「こういう条件があれば、農山村でくらすませます」をテーマに2グループに分かれて意見交換。農業には虫もいなくちゃ困るだけどねえ



毎月、一関市花泉から尾畑さんが運んでくれる「風の便り」、とても楽しみでした。尾畑さん、ぐんぐん成長していった



花泉は岩手県の最南端、農作業は大変で、冬は寒かったと尾畑さんから聞きましたが、この風景は大好きです。奥はもう宮城県



花泉は1年間過ごただけですが、思い入れもありますし、地域の人たちとも知り合いになったから、ちょうど白鳥の時期だから行ってみようとか、お米の収穫の時期だからまた行ってみようと思うこと多いです。友だちとかも呼んで、ふるさとみたいになっていく先に、地域おこしの試みが繋がって、実を結ぶ。

当日のアンケートから(抜粋)

- 🌸花泉(一関市)での体験がこれからの人生のどこかで役に立つといいですね 🌸25歳のこの経験は誰にもできないすばらしい体験です。お金には変えられません。焦らないで尾畑さんも自分の人生をせんとく下さいませ 🌸1年間の活動が大変よくまとめられています。地方との各種交流ができましたね。大変良かったです
- 🌸人生100年この1年は必ず実になります 🌸市民活動センターのサポーターになったきっかけなど興味深かったです
- 🌸今、自分の居場所で何ができるか、大事なメッセージをもらった気がします。私たちの食料を生産する方々、地方の現状が厳しいとよく感じました
- 🌸よい経験をされたと思います。学びも多かったようです。これからそれが生きることに役立つと思います。活躍を期待しています
- 🌸一関の花泉が尾畑さんの「第2の故郷」になるでしょう
- 🌸手書きの文書資料も多く、ご苦労されたのが伝わりました
- 🌸地方活性化、若い方々への支援制度がまだまだ浸透されていず、地方への応援制度を広めるのも大事ですね

6月の展示コーナー (6/1~30)

土曜アートサークル



共育ボードより ☆へびがとてもリアルですごかったです。口の中の空どうがとてもリアルだったです ☆くもがかわいい ☆子どもたちの発想力がとても豊かで見ていて楽しくなります ☆発想がすばらしい。とてもまねができません。すご〜い ☆夢がいっぱい楽しそうですネ。ありがとう ☆自由で楽しくステキですね。サークルの様子が浮かぶようです ☆立体・絵両方ともかわいくてステキですね! ☆楽しいような 自由な発想がかっこいい。ゆめがあるとおもいました! ☆どの作品も子どもたちの自由な発想があふれています。見ていて楽しいです。これからもっとたくさん作って下さい ☆いろいろかませてくださいね! ☆きれいです。へびがひとをころしましたか。☆子ども達の想像・創造力がすごい! 作品名もおもしろい ☆グラデーションがきれい。ホラーがいい ☆ドマーズ知ってるww。けっこうクオリティある ☆ミスターグレーブがかわいい ☆動物が多い ☆このジメジメした梅雨の気分もふつとびますね~楽しくなっちゃう♪ ☆思わずニコッ! 心がいやされる~ ☆作ったものが全部こわくてびっくりしました!! ☆ユニコンがとてもリアルで驚きました。「笑」また良い作品ができるといいと思います

市民交流スペース内の「展示コーナー」では、個人・団体の活動の紹介や作品展を行うことができます。申込み方法については、大和市民活動センターまでお問い合わせください。